

2014 年度（対象年度：2013） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 4	教育内容・方法・成果
44	成果

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
441	【大学全体の視点】 「学生に保証する基本的な資質」に沿った成果が上がっていますか。	【大学全体の視点】 ①学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。【※どのように】	C	B
		【大学全体の視点】 ②成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。	B	
442	【大学全体の視点】 学位授与（卒業認定）は適切に行われていますか。	【大学全体の視点】 ③学位授与の方針に従って学位授与を行っていますか。	A	A

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

- ①「学生に保証する基本的な資質」の達成度については、各学部等がそれらの測定に必要な指標の具体化に向けて主体的に取り組むことが確認されているが、各学部の取り組みを補完する仕組みとして、『学位授与の方針』に関する達成度調査を提案し、2013年度では、昨年度に1学部を加えた計6学部（文学部、経済学部、経営学部、理工学部、国際文化学部、短期大学部）が取り組み、その成果を確認している。
- 「教育課程編成・実施の方針」の下に展開される個々の授業については、各年度2回（第1学期・第2学期）、「学生による学期末の授業アンケート」を実施し、その結果を各授業担当者にフィードバックして、学習成果の確認の一助としている。また、卒業生の学習成果を測定する方法として、「卒業生および就職先の企業に対する調査」の一環として、卒業生アンケートを実施した。
- しかし、『学位授与の方針』に関する達成度調査をはじめとしたこれらの調査は、いずれも学生や卒業生の主観的な調査であるため、今後は、客観的に成果を確認できるような調査方法についても検討する必要がある。また、『学位授与の方針』にある「学生に保証する基本的な資質」の各領域が学修の成果としてあきらかとなるようにシラバスの改善が必要である。
- ②平均値（成績平均値）や短期大学部を除く全ての4年制学部ではGPA（成績加重平均値）を導入しており、これらの結果をもとに、成績分布を把握している。また、進級などについては、全ての4年制学部で修得単位数の基準を設け、定期的に修得単位数僅少者を把握し、指導を行っている。
- ③学位授与（卒業認定）については、「本学学位規程」や「コース修了に必要とされる単位数及びコース修了認定方法」に基づき、各学部教授会及び研究科委員会において厳正に行われている。卒業に必要な要件や必要単位数については、『履修要項』『大学HP』に掲載し、学生に明示している。

[改善すべき点の確認] 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

(自ら「改善すべき点」と掲げた事項)

- ・ Web シラバスに「到達目標」として、科目ベースで学生に対して当該科目を履修することによって培われる能力や資質を明示しているが、今後、学生が「学生に保証する基本的な資質」との関わりについて理解できるような記載方法を検討する。

(評価結果)

- ・ 学生へのフィードバックという点においては、「改善すべき点とその改善方策」に記載されている点も含め、授業アンケートの改善や組織的な活用について継続して検討を進める必要がある。【留意点】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

- ・ 『学位授与の方針』に関する達成度調査を提案し、2013年度では、昨年度に1学部を加えた計6学部（文学部、経済学部、経営学部、理工学部、国際文化学部、短期大学部）が取り組み、その成果を確認している。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

- ・ 『学位授与の方針』に関する達成度調査をはじめとする各調査は、いずれも学生や卒業生の主観的な調査であるため、今後、学修成果を客観的に確認できるような調査方法について検討を行う。
- ・ 「学生による学期末の授業アンケート」を実施しているが、その結果の活用方法については、一部の学部を除き各授業担当者にフィードバックするにとどまっておき、組織的に確認・検証するなど、アンケート結果の活用方策について検討する。また、各授業科目を受講した学生の学修成果がより適切に測定できるように設問項目の見直しを検討する。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
442	大学 HP (http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html)
442	学位規程

II. 評価結果

総評

学生の学習成果を測るための指標については、DP（学生に保証する基本的な資質）とCPとシラバスの項目（到達目標と成績評価の基準）との整合があれば、組織的には十分整備される。ただし、この点については、基準4-43の実現が必要であり、全学的なシラバスのチェックもなされていない状況では期待できない。各種アンケートの活用ができないのも当然である。

指標の具体化には、「理念・目的」→DP→CP→各科目シラバス→各科目到達目標＝各科目成績評価の基準という流れとその可逆性も意識して、組織（教育課程）と個人（授業）の連携を周知するための組織的な研修等を推進する必要がある。

なお、認証評価結果において努力課題となった「全研究科の博士後期課程において、修業年限内に学位を取得できず、課程の修了に必要な単位を取得して退学した後、在籍関係のない状態で学位論文を提出した者に対し課程博士として学位を授与していることは適切ではない」ことについては、早急に改善する必要がある。

また、前回留意点としてあげられた授業アンケートの改善や組織的な活用について、学修成果を客観的に確認できるような調査方法を検討頂きたい。また、現在行っている卒業生に対する調査の「教育成果に関する事項」についても検証していただきたい。

伸長すべき点(長所) 《箇条書き》
改善すべき点 《箇条書き》 *各項目に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
<ul style="list-style-type: none"> ・指標の具体化には、「理念・目的」→DP→CP→各科目シラバス→各科目到達目標→各科目成績評価の基準という流れとその可逆性も意識して、組織（教育課程）と個人（授業）の連携を周知するための組織的な研修等を推進する必要がある。【留意点】 ・認証評価結果において努力課題となった「全研究科の博士後期課程において、修業年限内に学位を取得できず、課程の修了に必要な単位を取得して退学した後、在籍関係のない状態で学位論文を提出した者に対し課程博士として学位を授与していることは適切ではない」ことについては、早急に改善する必要がある。【努力課題】 ・また、前回留意点としてあげられた授業アンケートの改善や組織的な活用について、学修成果を客観的に確認できるような調査方法を検討頂きたい。また、現在、キャリアセンターが行っている卒業生に対する調査の「教育成果に関する事項」についても検証していただきたい。【留意点】
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要

Ⅲ. 大学基準協会からの助言について

助言内容
【認証評価結果 努力課題】
1) 全研究科の博士後期課程において、修業年限内に学位を取得できず、課程の修了に必要な単位を取得して退学した後、在籍関係のない状態で学位論文を提出した者に対し「課程博士」として学位を授与していることは適切ではない。課程博士の取り扱いを見直すとともに、課程制大学院制度の趣旨に留意して修業年限内の学位授与を促進するよう、改善が望まれる。

Ⅳ. 全学的課題事項

2012年度	<p>■シート番号 441</p> <p>卒業生および就職先の企業に対する調査については実施方策を検討する必要がある。【努力課題】</p>
2011年度	<p>■シート番号 441</p> <p>卒業生および就職先の企業に対する調査実施は検討課題であり、全学的な問題として提起する必要がある。【努力課題】</p>
	<p>■シート番号 442</p> <p>大学院の学位審査および修了認定については、研究科により審査基準に差異があるので、より一層の客観性・厳格性の確保に努めるため、検証が必要である。【努力課題】</p>